

一般外来研修

期間：4 週間

到達目標：コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、単独で一般外来診療を行える。

症候などの臨床問題を適切な認知プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患のフォローアップができる。

方略：

- ・研修開始 5 月以降にローテーションする内科、外科、小児科、地域医療を研修中に行う。
- ・内科、外科、小児科、地域医療を研修中に各 1 週間分の一般外来研修を同一の診療科の一般外来で研修し、合計 4 週間分とする。
- ・午前中のみ外来は 0.5 日、午後まで行う場合は 1 日とし、合計 5 日で 1 週間分とする。
- ・各内科研修中においては、内科新患外来で研修する。
- ・外科では一般外科外来、小児科では一般小児科外来、地域医療では地域の病院の一般外来で研修する。
- ・他の診療分野と同時に研修を行うことも可能。全研修期間で合計 4 週以上外来研修を行う。
- ・具体的には、紹介状を持たない初診患者あるいは紹介状を有していても臨床問題や診断が特定されていない初診患者を担当する外来、または特定臓器ではなく広く慢性疾患を継続診療する外来で研修する。
- ・「Ⅱ 実務研修の方略」にある経験症候および経験疾病が広く経験できる外来において、研修医が診察医として指導医からの指導を受け、適切な臨床推論プロセスを経て臨床問題を解決する研修を行う。

(参考)「Ⅱ 実務研修の方略」にある経験症候および経験疾病

経験すべき症候

下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、妊娠・出産、成長・発達の障害、終末期の症候（29 症候）

※「・」で結ばれている症候はどちらかを経験すればよい。

経験すべき疾病・病態

外来または病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害（脳梗塞・脳出血、脳動脈瘤・くも膜下出血）、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）（26 疾病・病態）